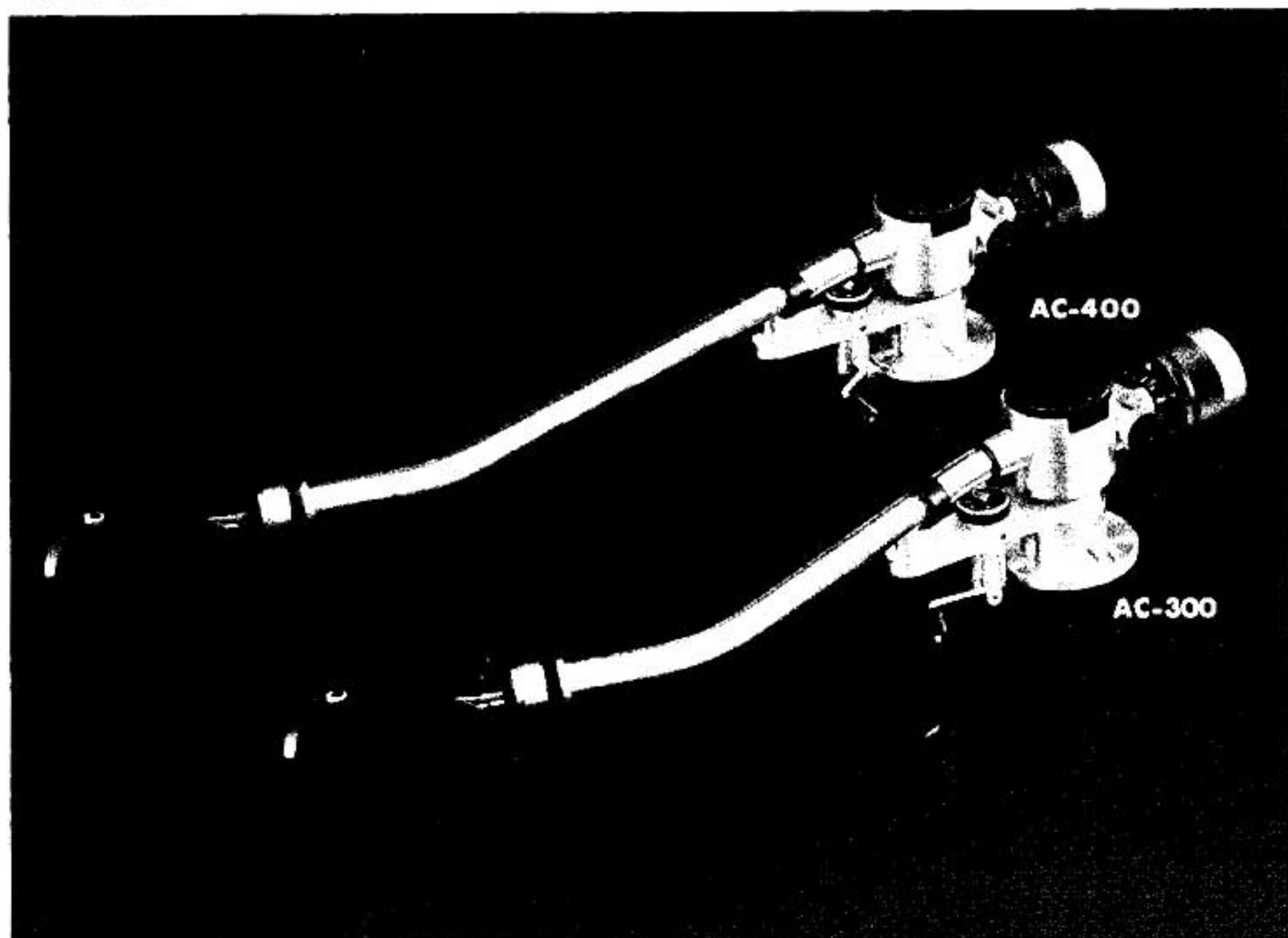




ビスコースダンブド・ワンポイントサポート・トーンアーム

AC-300 (35cm型) **AC-400** (40cm型)

取扱説明書



ご挨拶

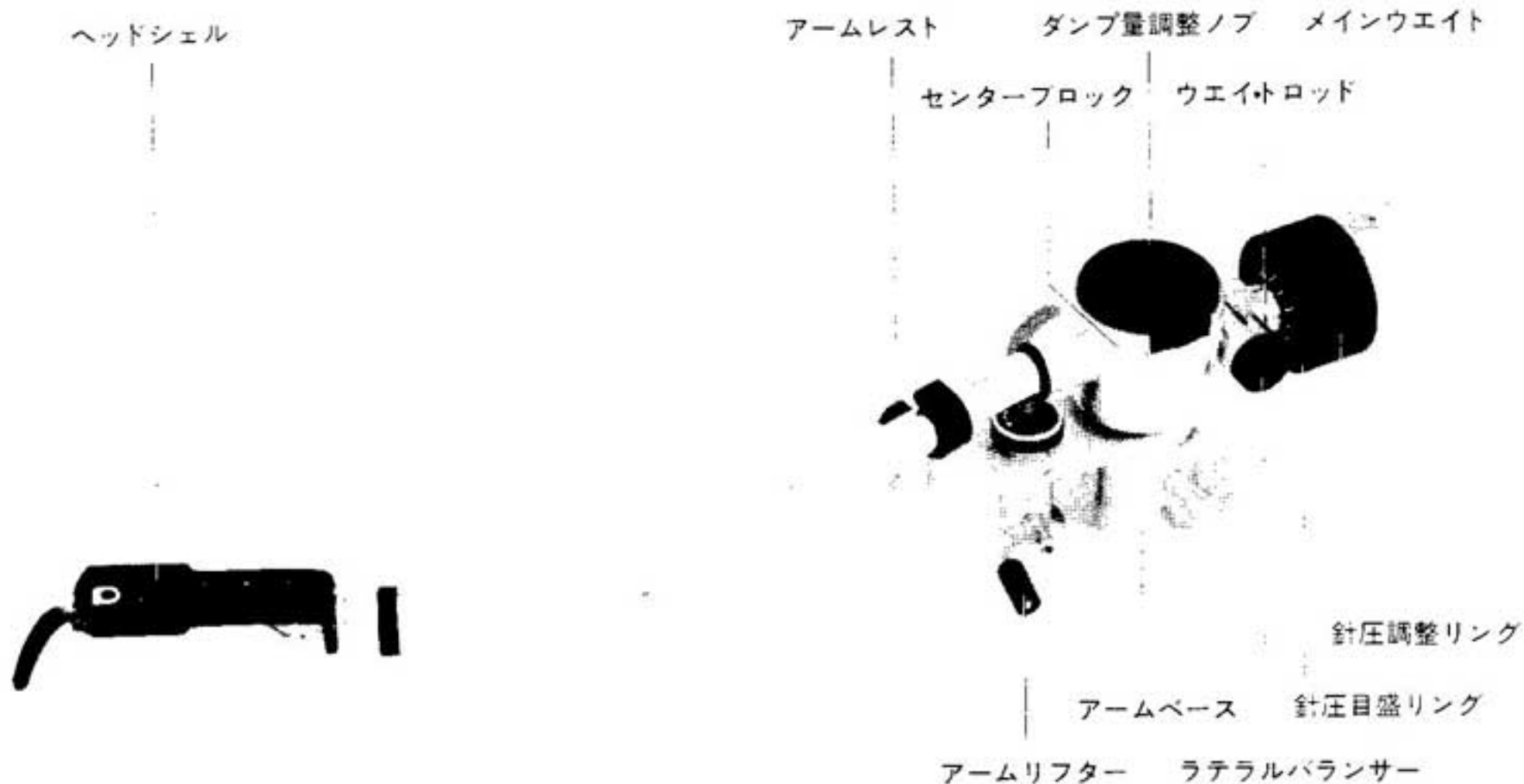
このたびは数あるトーンアームの中からオーディオクラフト AC-300、AC-400 をお買上げいただきまして、まことにありがとうございました。

AC-300 は 35cm 型、AC-400 は 40cm 型のビスコースダンブド・ワンポイントサポート方式のトーンアームで、ともにレコード音溝に対して高いトレーシングアビリティをもち、レコード音溝に刻まれた音を明確にオーディオアンプへ伝達する“音質追求”を徹底させた製品です。

このパンフレットは AC-300、AC-400 の取扱説明書で、ご使用の前にぜひご一読くださいますよう、お願いいたします。

ご使用の前に 必ずお読みください!!

- ダンブ用オイルは、必ず弊社製の付属オイル (AO-30) をご使用ください。
- オイルは 0.25~0.3cc が適量です。付属の注射器 (1cc 用) を用い、計量の上注入してください。オイルは少な過ぎても、多過ぎても充分の性能が発揮されません。特にオイルの多すぎはオイル洩れを招き、トレーシングアビリティの低下、接触不良など故障の原因となりますからご注意ください。



AC-300, 400の規格

	AC-300	AC-400
型 式	ワンポイントサポート・ビスコースダンブ	
全 長	345 mm	390 mm
有 効 長	237 mm	283 mm
オーバーハング	15 mm	13 mm
軸受中心よりターン テーブル中心距離	222 mm	270 mm
トラッキングエラー	0.21°/cm 以下	0.13°/cm 以下
後部最大長	80 mm	85 mm
針圧印加方式	0 ~ 3g (0.25g ステップ直読式)	
カートリッジ使用範囲	3 ~ 17g	3 ~ 17g
ラテラルバランス	NLB方式	
アームリフター	SAL方式オイルダンブ型 (1.5 ~ 5 秒速度調整式)	

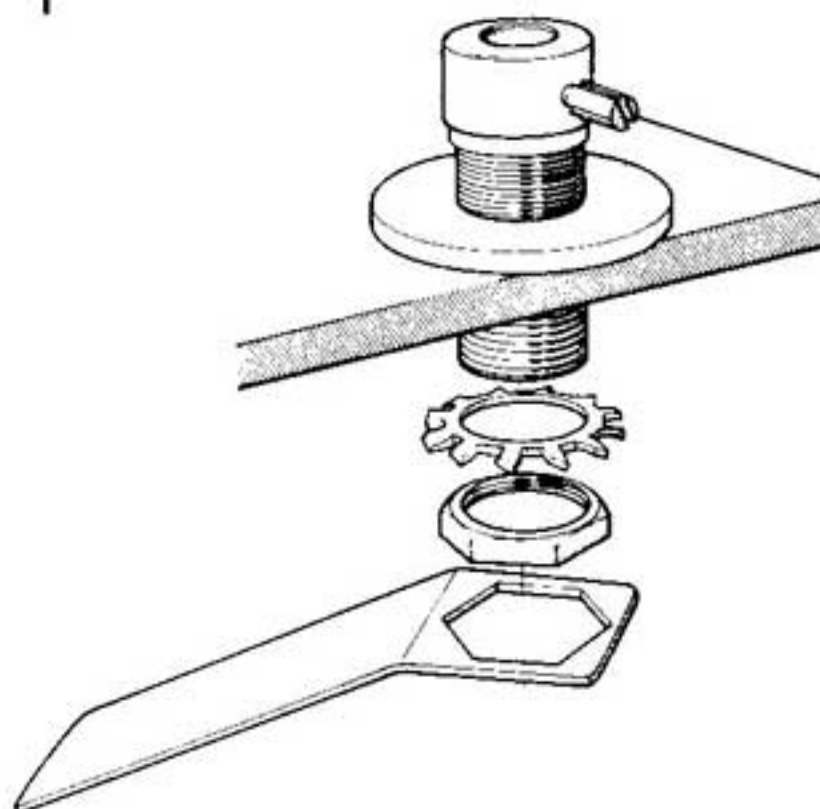
プレーヤーキャビネットへの取付け

プレーヤーキャビネットは板厚15mm以上のがっちりしたものをお選びください。特にモーターボードは反りなどのない良質のものをご使用ください。

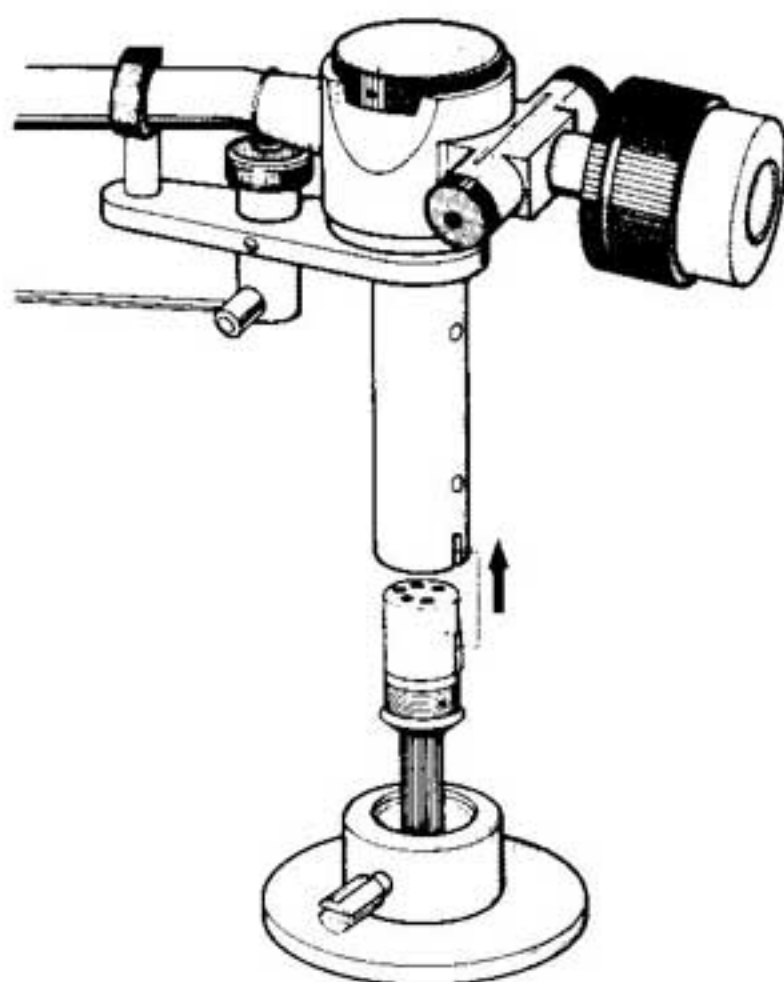
- ① 付属の“取付けゲージ”に従って、アームベースの取付け位置をきめ、モーターボードに22mmφの取付け穴をあけます。
- ② 図1のようにアームベースを取付け穴に差込み、ロックワッシャーを介して、ロックナットを付属レンチでしっかり締めます。
- ③ 付属出力コードのコネクター部を図2のようにアームベース裏側から引き出し、トーンアームのセンターシャフトに差込み接続してください。（接続は出力コード側のコネクター突起部と、センターシャフトのガイドスリット部を合わせれば、かんたんに接続ピンの位置出しができます）
- ④ センターシャフトをアームベースに差込み、ターンテーブルの高さに合わせてから、アームベースのロックネジを硬貨などでしっかり締めつけてください。ロックネジの締めつけが弱いと、トーンアームを動かすときアームレストごと動いてしまうことがあります。（ロックネジ先端にはナイロンブッシュが取付けられていますから、センターシャフトにキズがつくことはありません）
- ⑤ トーンアーム尾部のウエイトロッドにウエイトアッセンブリーを差込み取付けます。押し込みながらクリックが1～2度あったところで、ウエイトアッセンブリーを左（反時計方向）に回すとウエイトアッセンブリーは前に、右（時計方向）に回すと後に移動し、取付け完了です。

●プレーヤーキャビネットへの取付け

1



2



■ オイルの注入

AC-300, AC-400はシリコンオイルによるワンポイントサポート方式ですから、ご使用前に付属のシリコンオイル(AO-30)を次のような手順で注入してください。オイルは必ず付属のAO-30をご使用ください。

オイルの量は0.25~0.3cc位が適量です。オイルは少な過ぎても多すぎても充分の性能が発揮されません。特にオイルの量が多すぎるとオイル洩れを招き、トレーシングアビリティの低下、接触不良など故障の原因となりますからご注意ください。

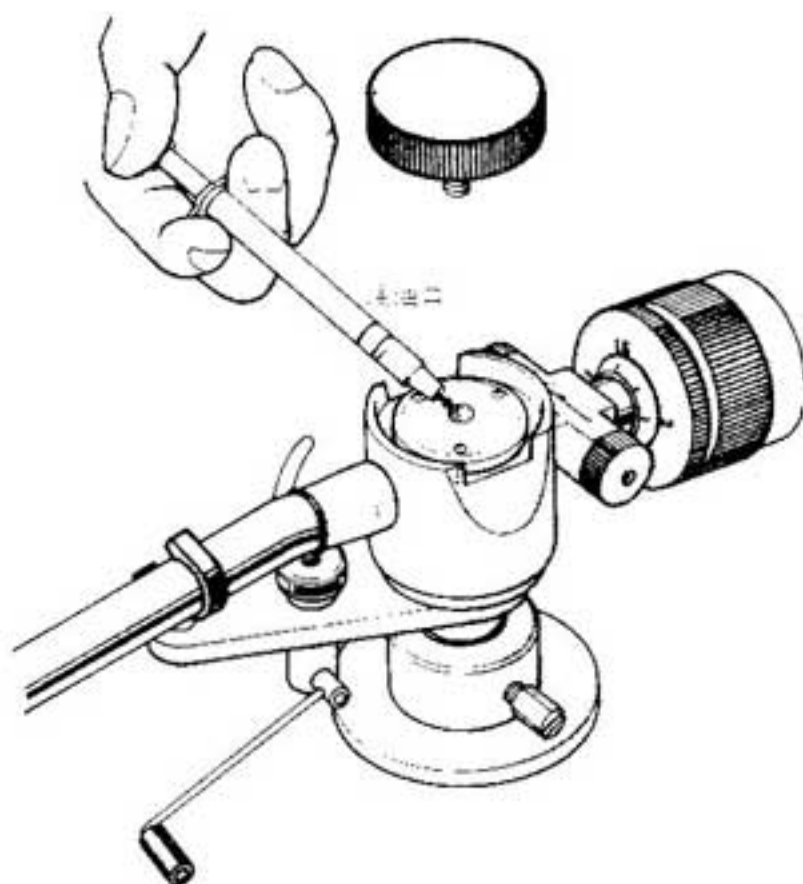
- ① センターブロックのダンプリ量調整ノブを左へ回し、ノブを取外します。
- ② 付属のオイル容器のフタを取外し、注射器でオイルを0.3cc位吸い上げます。オイルは粘度が高いのでふつうの液体のようにかんたんに吸い上げられませんが、注射器の先をオイルにつけてポンプを引き上げ、しばらくたつと徐々にオイルは吸い上げられます。気泡が入りますから目盛と換算して約0.3ccを吸い上げてください。(図3)
- ③ オイルを吸い上げた注射器は、先端周囲についたオイルを良くふきとってから、ダンプリ量調整ノブを取外したあとのオイル注入口に先端を押し当て、オイルが周囲に付着しないよう注入してください。もしオイルが付着したような場合は綿棒などでよく拭きとってください。(図4)
- ④ オイル注入が完了したら、再びダンプリ量調整ノブをセンターブロックにゆっくりロックされるまで、ねじ込んでください。
- ⑤ ダンプリ量調整ノブをロックされるまで回しておくとオイルカップのギャップは最大となり、オイルの落着きがスムーズとなりますが、注入後は約15分くらいはアームは動かさないようにしてください。

● オイルの注入

3



4

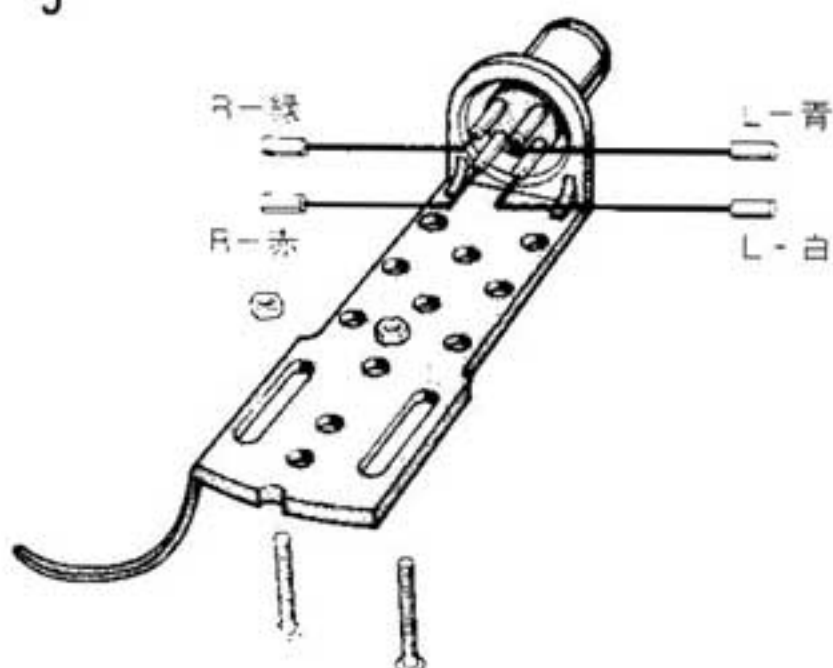


■ ヘッドシェルとカートリッジの接続

カートリッジは図5のようにヘッドシェルに接続取付けてください。

●ヘッドシェルとカートリッジの接続

5



- 白リード線……………Lプラス(L+)
- 青リード線……………Lマイナス(L-, LG, LEなど)
- 赤リード線……………Rプラス(R+)
- 緑リード線……………Rマイナス(R-, RG, REなど)

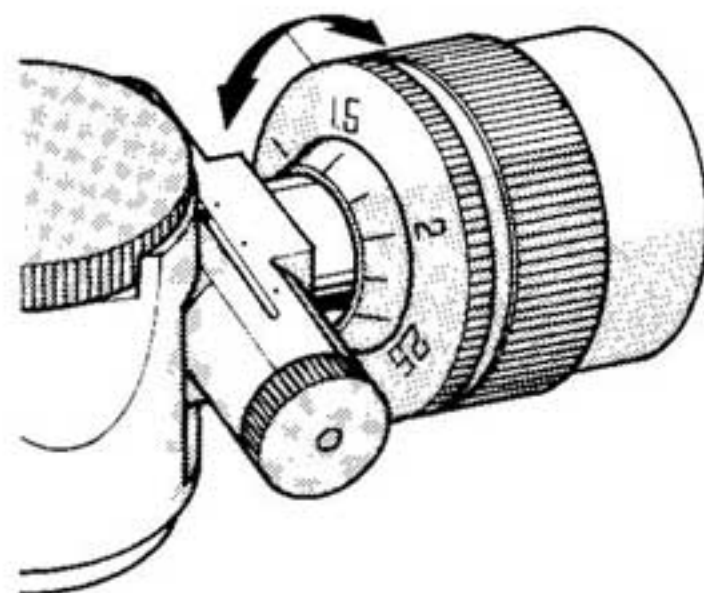
ヘッドシェル AS-1は約15mmカートリッジの取付け位置をスライドできます。オーバーハングは AC-300が15mm、AC-400が13mmですから、適正な位置に取付けてください。

■ 針圧の調整

AC-300、AC-400に取付け使用できるカートリッジは、取付寸法がEIA規格の、自重3.5～11g(サブウエイト使用時17g)となっています。ヘッドシェルともならば、12～20g(サブウエイト使用時25g)で、オルトフォン SPU-GTなどヘッドシェルとも32gのような重量級は、別売のウエイト **AW-1**を併用してください。

●針圧の調整

6

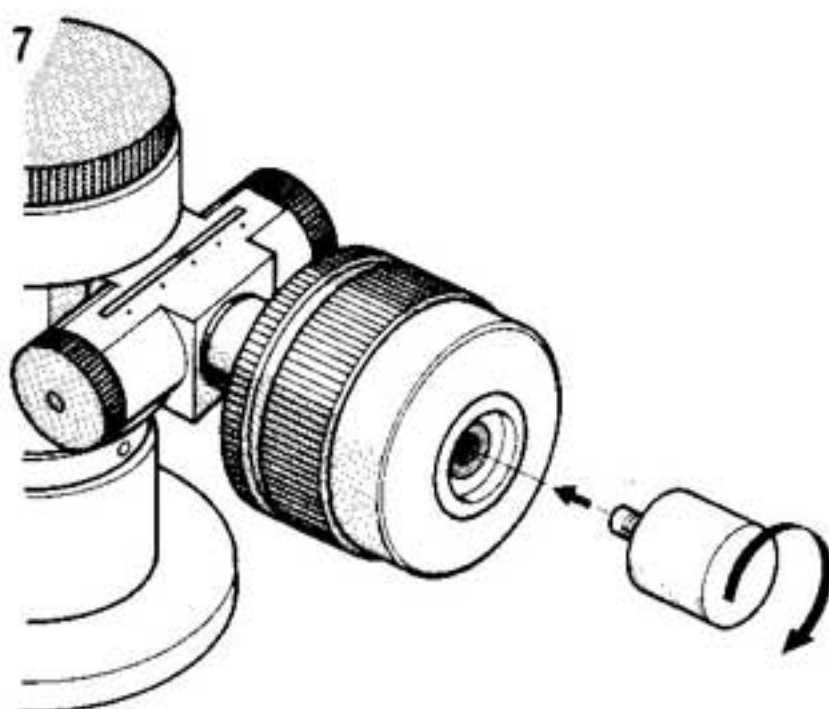


- ① ウエイトアッセンブリーはダブルウエイト方式ですから、針圧調整リングの回転とメインウエイトの前後のスライドによって、トーンアームの水平バランスはきわめてとりやすくなっています。
- ② 水平バランスがとれたら、ウエイトアッセンブリーが動かないよう注意しながら、針圧目盛リングに刻まれた数字の“0”をウエイトロッドの表示線に合わせます。

- ③ 次に針圧調整リングを左へ回すと、針圧目盛リングとともにウェイトアッセンブリー全体が前へ移動して針圧がかかります。使用カートリッジの適正針圧に合わせて、針圧目盛リングの数字がウェイトロッドの表示線に合致するように調整してください。

(図6は1.5g針圧印加時を示す)

- ④ 使用カートリッジがヘッドシェルとともに重量が20gを超えている場合は、水平バランスをとる前に図7のようにウェイトロッド尾部にサブウェイトをねじ込み取付けてください。



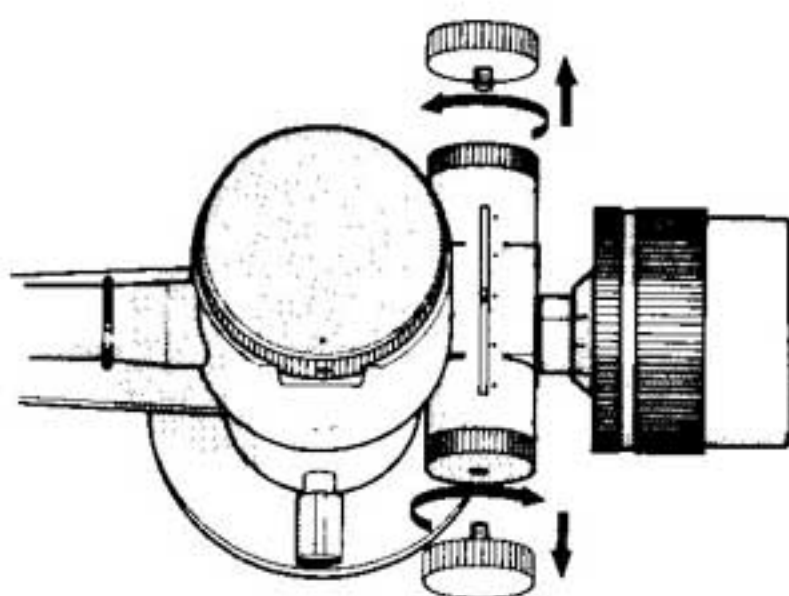
■ ラテラル баланサーの調整

AC-300, AC-400は完全なワンポイントサポート方式ですから、カートリッジの重さによってラテラルのバランスが異なり、アームの傾きができます。オイルの注入、針圧の調整などすべての調整がすみしたら、実際にレコード面に針先を降し、ラテラルのバランスを正しく調整してください。

- ① レコード面にカートリッジ針先を降し、カートリッジを正面から見てレコード面に対して左右の傾きがないかを確認してください。
- ② 左に傾いていたならラテラル баланサーのツマミの左右どちらでも操作しやすい方を奥側へ回し、右に傾いていたなら手前側へ回してください。ラテラル баланサーの錘が移動してバランスがとれるようになります。
- ③ ラテラル баланサーの錘が右または左へ最大に移動させても、バランスがとりきれない場合(自重の重いカートリッジ使用のときなど)は、付属のサブラテラルウェイトを傾いている方向と逆なツマミにねじ込んでバランスをとってください。(図8)
- ④ サブラテラルウェイトを併用した場合は、針圧が変化しますからもう一度針圧調整をとり直してください。

● ラテラル баланサーの調整

8



(注)ラテラルバランスはダンプ量調整ノブをLIGHTポジションにして、レコードを回転させた状態で調整するとバランスがとりやすくなります。

(注)極度にラテラルバランスがとりにくい場合は、オイルの注入し過ぎが考えられます。(オイルを注入し過ぎた場合は、お買上店または直接弊社へお問合せください)

■ ダンプ量の調整

使用するカートリッジの特性や針圧などに対応させて、ダンプ量を調整することができます。

■センターブロックのダンプ量調整ノブを右へロックするまで回した位置（センターブロック右側面に刻印された3黒点のいちばん下に、ノブ底面が合致する位置）が、もっともオイルのダンプ量の少ないLIGHTポジションで、超ハイコンプライアンス・超軽針圧（0.75～1.0g位）設計のカートリッジに適しています。なおノブ表面の白点はこのとき右側面に位置するよう設計されています。（図9）

■この右いっばいの位置からノブを左へ1回転（白点が1回転）させると（ノブ底面は真中の黒点に合致）、ダンプ量はNORMALなポジションとなり、針圧1.25～2.5g位のカートリッジに適します。（図10）

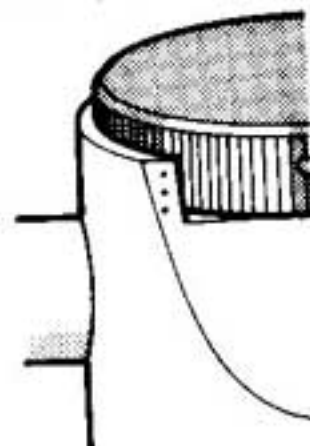
■さらにノブをもう1回転させると（ノブ底面は上の黒点に合致）、HEAVYポジションとなり、針圧3g以上のカートリッジに適します。（図11）

ダンプ量の調整は実際にレコードを演奏しながら、もっとも適した点を求めてください。なおノブの調整によりセンターブロックの高さが、NORMALポジションを中心に±1mm変化します。HEAVYポジション時はアームが、アームリフターに触れる場合がありますから、アームリフターを取付けてあるベース右側の小ネジをゆるめて、リフター位置を約1mm下げてください。（詳しくは“アームリフターの調整”の項を参照してください）

● ダンプ量の調整

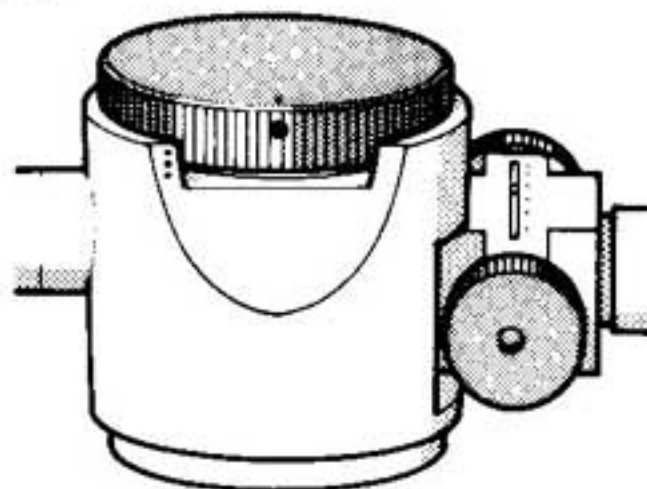
9

● ライト



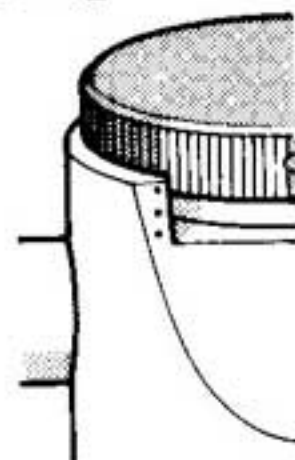
10

● ノーマル



11

● ヘビー



■アームリフターの調整

■ 下降速度の調整

シリンダー頭部を回すことにより、リフターは下降速度を約1.5～5秒の間に調整できます。(図12)

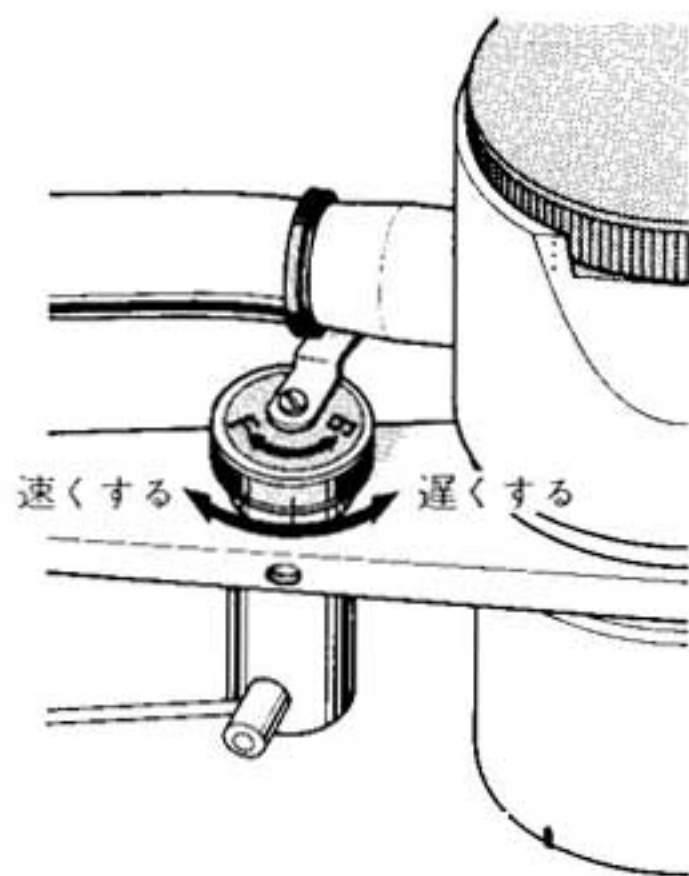
出荷時は左に回しきった下降速度がいちばん遅いS(SLOW)ポジションに調整されていますが、そこから右へF(FAST)方向へ回すと下降速度は速くなります。約4回転させると軽いクリックがあり、Fポジションのリミットになります。

■ リフターの高さ調整

アームリフターの高さは出荷時に、ダンブ量調整がNORMALポジションでいちばん適正な位置に調整されています。“ダンブ量の調整”の項で記したように、ダンブ量をHEAVYポジションにしたとき、センターブロックがNORMAL位置より約1mm下がりますので、リフターガイドに触れカートリッジ針先がレコード面に降り切らない場合があります。このときはリフターベース右側面の小ネジをゆるめ、リフターを約1mm下げてお使いください。

●アームリフターの調整

12



■ オイル洩れについて

オイルは高精度のものを使用し、オイルカップもオイルが洩れにくい構造をとっていますから、オイル量が指定の0.3cc以下でふつうのご使用では、オイル洩れはありません。

■ オイルは必ず指定量0.3cc以下にしてください。

■ オイル注入後はアームを傾けたり横倒しなどしないようご注意ください。

■ アームの動きが鈍かったり、ノイズが出るようなときは、原因のひとつにオイルの注入し過ぎとオイル洩れが考えられます。ダンブ量調整ノブを取外し点検してください。

■ もしオイル洩れのひどい場合は、お買上げ店または直接弊社へ御連絡ください。



株式会社 **オーディオ Craft**